

コラム「ブラジルの素顔」

「普通は〇〇だよ」という考え方が、なかなか通用しないのがブラジルです……

2020年6月

三井住友銀行 加藤 巖

「ブラジルの“普通”って何？シリーズ ～ 渦巻く新型コロナ・ウイルスと今後のブラジルについて」

「普通は〇〇です」という言い方を今まで何度耳にしたことでしょうか。そんな日本人の常識に馴染まないのがブラジルです。

本稿では最近特にニュースで注目を集めているブラジルが、少し勘違いされている可能性があるように思うので、そこを中心に解説したいと思います。

テレビニュース番組等でブラジルが注目を浴びていますが、その理由はたとえば自動車の製造台数が大きく落ち込む見込みであるとか、世界銀行が発表した2020年GDP成長率の予測値が大きくマイナスになりそうであるとか、継続する自粛生活から国内のネット販売が大きく伸びている、といった類のことではありません。世界標準から乖離した新型コロナ・ウイルスへの疾病対策を取り続けているブラジルのボルソナーロ大統領の行動と、国内における感染速度があまりにも急であることが理由になっているものと思います。

今思えばボルソナーロ大統領が初当選をした時は、彼に政治経験があまりなかったことや、社会的弱者への差別発言が多い行動等から当然、市場評価は辛辣でした。しかし基本構造ができ上がっている大国ブラジル故に、誰が大統領になっても大きく道が外れてしまうことはないという認識から、すべて織り込み済みでの当選だと考え、ブラジルについて述べる際には「ブラジルは盤石！」とコメントしていました。

身近に政治家の存在があり、政治家の本当の力量を知ることができるのは有事の際であると考えて育ってきた筆者だったので、有事はないだろうと考えてのことでした。しかしながら、ここにきて本格的な有事といえる状況に陥っていることから、ブラジルが迷走している感じがするので注意が必要だと感じています。

ほかのほとんどの国が人命最優先策を取っているなか、経済最優先策を取っていること自体はボルソナーロ大統領の方針なので口をはさむ立場にはないのですが、少なくとも他国のメディアからは「ボルソナーロ大統領は敢えて無策という政策を実行することで多くの高齢者を殺しているのだ」と表現されているのが現状であり、世界に対するブラジルのイメージ劣化は避けられない状況になっていると思います。

その流れから導かれる日本人からの評価は、ブラジル全体が一丸となって人命を軽視した経済優先政策を推進し、コロナ対策を施していないことが原因でこれだけ急激に感染者と死亡者が増加している、ということになりそうですが、それは誤解です。

確かにボルソナーロ大統領は「コロナはただの風邪だ」と発言したというのは事実です。しかしこれも想像の域を出ませんが、もしかしたら彼はすでに一度感染しているのかもしれませんが。政府公式ミッションとして3月7～10日にかけて米国を公式訪問してトランプ大統領と会談をしましたが、同行していた大統領府広報局長が新型コロナウイルスに感染してしまったことで、幸運にも自身は抗体ができたと考えていることから、安心しているのかもしれないと考えています。

<新型コロナ・ウイルスの事実と拡散の要因分析>

ブラジルと新型コロナ・ウイルスの初遭遇は2月26日で、第一号感染者はサンパウロ市在住のイタリアへの渡航歴があったブラジル人でした。実は当時から筆者は周囲に対して「大拡散の危機」があることを言い始めていました。それはブラジルの文化的要素を考慮するならば、容易に想像できたからです。そして残念ながら、その予想は当たってしまい、今に至っているわけです。

このコラムを書いている6月25日時点で感染者が約123万人、死者が5.5万人を超え、私は医学のド素人ですが、そして多くの友人が住んでいるブラジルなので正直に書くのは大変に辛いのですが、まだまだ死者は増加してしまうだろうと分析します。

	2月29日	3月31日	4月30日	5月31日	6月25日
感染者数	2	5,812	85,380	514,849	1,228,114
死亡者数	0	202	5,901	29,314	54,971

(出所:ブラジル保険省他)

加えて感染者数や死亡者数も正確ではない可能性があるものと考えた方がよいのかもしれませんが。毎日数万人の感染者が増加しているという発表ですが、サンパウロでも死亡者の数から逆算して感染者数を算出しているのでは?等とも噂されている始末です。

ではなぜ急激に増えているのか、です。

たとえば街頭でインタビューをすると、5万人以上の方が亡くなっていることや現実に近親者が死亡することを体感していることから「コロナは怖いよ」と発言する国民が多いのも事実ですが、行動と一致しないことが多いと思います。

事例を披露すると、頻繁にSNSを通じて「今夜は友人達とバンドセッション中!」とか「〇〇の誕生日パーティー最高!」等のコメントとともにマスクをしないで、本当に楽しそうに、美味しそうな料理とお酒とともに満面の笑みで人生を謳歌している、所謂「2密=密集・密接」の状況にある映像が届いてくる多くのメッセージをみると、

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものであり、当行としての見解ではありません。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

まだまだ拡散することが予想できるのです。これは私が企業人として留学させて貰っていた30年前もそうですが、中学生時代に住んでいた40年前と全く同じ「ノリ」ですので、これが所謂ブラジルの文化なのだと思います。

このような文化的な背景に加えて、ブラジルでは日本と違ってデング熱、黄熱病、マラリア、AIDS等の強烈な感染症の存在が身近にあるので、特別の疾病対策をすることができにくいことも一因かもしれません。

また意外にももうひとつの理由は貧民街の存在かもしれません。ブラジルの貧民街にはいろいろな階層の街があり、普通に商店や銀行があり、生活が営まれている地区も貧民街ですし、たとえば軍警察ですら侵入することを躊躇するような貧民街も、同じ貧民街であり、かつかなりの人数が居住していることも急激な拡散人数増加の有力な理由に挙げられると考えます。

しかしながら、いろいろと書きましたが、新型コロナ・ウイルスの急激な拡散がニュースになっているブラジルの真の問題は今の政治面にあると考えています。

<大統領 vs 州知事の構図>

ブラジルは連邦国家であり、州にかなりの権限が委譲されていますが、そのブラジルは州知事対大統領という図式ができ上がってしまっているのです。

その反大統領派の州知事のなかでも、圧倒的な経済力を持つサンパウロ州のドリア州知事が昨年来日した際にいろいろと話をする機会がありましたが、もともとが企業家ということもあり、考え方もクイックで大変に賢い・鋭い方だと判りました。そんな彼はコロナ対策の一環として、3密を避けるためにも祝休日を変更したり、サンパウロ州の多くの自治体でスーパーマーケットや銀行、医療施設や治安等生活に不可欠なサービス以外のすべての施設を強制的に営業停止にする感染拡大防止措置を取り入れる対策をうっているのです。他方レストラン等による料理配達やタクシー、配車アプリ、運輸、倉庫等はこの措置の対象外になっているため、デリバリーアプリを使っての食事調達やインターネット経由の買物等は飛躍的に増加しています。

そしてこの所謂「ステイ・ホーム」大運動に対して、ボルソナーロ大統領は常に「家から出て働こう」と表明しています。ボルソナーロ大統領は通関業務が滞りがちなブラジルでの医療資材の調達強化のための通関審査の簡素化や、問題が表面化する前の4月初旬に非正規雇用者や零細事業主等を対象に3ヵ月間にわたって1人あたり月額600リアルを支給する法令を即日施行したりしていますが、残念ながら悪いパフォーマンスが目立ってしまっています。

先に述べたようにもしかしたら自身は抗体ができたと考えていることから「安心・大丈夫」ということが背景にあるとすれば理解できる行動ではありますが、ボルソナーロ大統領はマスクを着用せずに至近距離で支持者と会話をし、ハグを繰り返し、景気を上向きにさせるために社会活動の自粛措置に対して批判的なコメントを継続しているのです。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものであり、当行としての見解ではありません。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

そして自身の考えに従わない、つまり景気浮揚策よりも感染拡大防止を推進すべきとした保健大臣を結果的に2名も短期間で更迭、辞任に追い込み、サンパウロ州、リオ・デ・ジャネイロ州やマナウス市長等社会活動の自粛措置を強く課している州知事や市長を罵倒する発言を繰り返しています。

<想定されるシナリオは？>

恐らく数カ月後に新型コロナ・ウイルスの感染ピークを迎えて、その後は次第に収束に向かうのでしょうか、一部の好調な業種を除いて、いったん国内景気は落ち込み、同時に治安も悪化するものと思います。しかしながら現在でも途絶えることなくチロチロと燃え続けている種火的な国外からの投資意欲は、ブラジル・レアルの通貨安も支えとなり次第に本格化し、投資が牽引するかたちで景気回復の道を進むものと予想しています。

現時点で心配なのは政治面であり、新型コロナ・ウイルスのピークがまだ先という不確実性の中、少なくとも暫くの間の混乱は必至であり、残念ながら「弾劾・罷免」や「クーデター」のリスクが現時点では「あるかも」と考えています。

加藤 巖 (かとう いわお)

1987年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。同年住友銀行(現三井住友銀行)入行。
89-90年ブラジル業務研修生(Minas Gerais 州立カトリック大学聴講生)、東京営業部、
国際審査部、JCIF国際金融情報センター出向、ブラジル住友銀行(現ブラジル三井住友銀行)、
グローバル・アドバイザー一部等を経て、2016年9月からブラジル・サンパウロに駐在して主に
日本企業の持つニーズへの対応及びM&Aのソーシング/アドバイザー業務に従事。
2019年4月末に再びグローバル・アドバイザー一部に帰任、現職。

「中南米における自国通貨のドル化の背景とその実効性/アルゼンチン」(JCIF/大蔵省委託調査)

「変動する世界の金融・資本市場(アルゼンチン)」(金融財政事情研究会)

「日本企業がブラジルと上手に付き合うために必要なこと」(日本ブラジル中央協会)

「新ブラジル事典/第4章:金融業」(ブラジル日本商工会議所編)、等の執筆多数。

「特集ブラジル経済と不動産市場の行方」(AREAS不動産証券化ジャーナル/2016年31号)対談。

日本機械輸出組合主催「ブラジル進出支援セミナー」

播磨国際協議会主催「ブラジル経済情勢」

上田市3商工団体共催「海外展開セミナー」 セミナー講師多数。